

# 週刊ブロック通信

発行所 公共事業通信社 東京都港区新橋6-22-6 JOYOビル7F 電話 03(3431)2811(代)  
編集発行人 黒澤隆寿 購読料1カ月39,000円+税 前納 毎週月曜日発行 FAX 03(3578)3450

コンクリート  
製品の業界紙  
**週刊ブロック通信**  
購読、広告の  
お申し込みは  
TEL 03-3431-2811  
FAX 03-3578-3450  
kjp@msj.biglobe.ne.jp  
(株) 公共事業通信社

## ブロック造住宅の系譜



屋根コンクリートブロック住宅のリノベーション「三角屋根プロジェクト」に取り組んでいる。

北海道では木造住宅の断熱性が不十分だった昭和40年代、行政が主体となり、北海道寒地住宅建設等促進法(寒住法)の制定や道立ブロック建築指導所(現・寒地建築研究所)の設立などを通じて、防寒と耐火性能に優れた三角屋根ブロック造住宅の普及を進めた。

その結果、昭和40年代から50年代後半にかけて札幌市近郊だけでも8000戸以上の三角屋根ブ

ビオプラス西條デザイン(本社、札幌市北区百合が原四一八一、社長：西條正幸氏)が、北海道の原風景とも言える三角

匂いが包む冬暖かく夏涼しい室内空間へと変身させるビオプラス西條デザインならではのリノベーション。今年10月には3棟目が完成した。

北海道では木造住宅の断熱性が高感に加え結露の問題もあり、木造住宅に主役の座を明け渡した。

ロック造住宅が建設された。当時のコンクリートブロック生産量は年間3万5000個に及んだとい

一方、外断熱工法の採用により、防寒と耐火性能に優れた三角屋根コンクリート住宅を木の躯体はそのまま活かす

使うことで、無機質な

過し、殆どが木造住宅や集合住宅などに建て替えられ、現存する物件は減少する一方だ。札幌市立大学や北海道科学大学では、三角屋根コンクリートブロック造住宅の持続的居住の可能性についての研究も行われている。

またシンプルな三角屋根を持つコンパクトで可愛らしい家に愛着を持つ北海道民も少なくない。ビオプラス西條デザインの西條正幸社長もその一人だ。事務所がある札幌市北区は篠路や拓北地区を中心、今でも電車の車窓から三角屋根を臨むことができるほど當時の住宅が残っている。

同地区はJR札幌駅まで30分圏内にありながら、坪単価は10万円程度と立地条件に恵まれたエリアだが、当時の購入者が高齢化

## ブロック造住宅を再生 ビオプラス西條デザイン

ビオプラス西條デザイン

で雪かきが困難になるなどして物件を手放し、札幌中心部のマンションや介護施設に移るケースが増えているのだという。

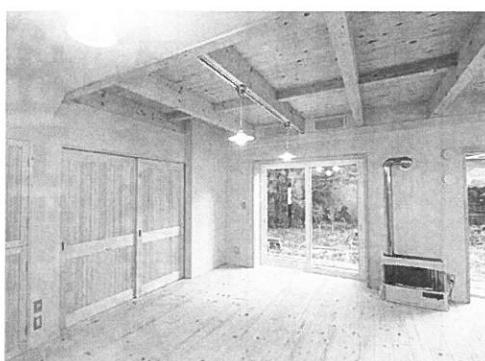
「三角屋根がそのまま消えて行くのはもったいない。外断熱工法と北海道産自然素材の仕上げ材を使い、冬暖かく夏涼しいコンクリートブロック住宅を工コ住宅に再生したい」と考えていた西條社長は、5年ほど前に事務所の近くで偶然目にした物件を入手。これをモデルハウスとすべく、これまで温めてきた「三角屋根プロジェクト」構想を実行に移した。

三角屋根プロジェクトのポイントは、北海道産木材と伝統的なブロック造住宅を合わせたこと。気密性や熱性能をケアして断熱性能の向上を図ると同時に、北海道産木材を多く利用して建物を木質化する。半世紀前に建てられた物件なので、基礎周りの弱点などもできる限りケアしながら、さらに30年は住める三角屋根コンクリートブロック住宅の実現を図る。

三角屋根住宅建築当時は「ブロック自身が断熱材」という発想のため、表し仕上げブロックの内側に薄い防湿用シートが貼らされているのみだった。これを撤去し、屋根には200から250mm、外壁と基礎は100から150mm厚の断熱材で包み込み、開口部にはサッシを入れるなど蓄熱効果の最大

## ブロック造住宅の系譜

化を図った。さらにブロック造住宅最大のウイークポイントである結露対策では、基礎補強と床下からの防湿を兼ねて床下全面に防湿シートを敷き防湿補強コンクリートを打設した。



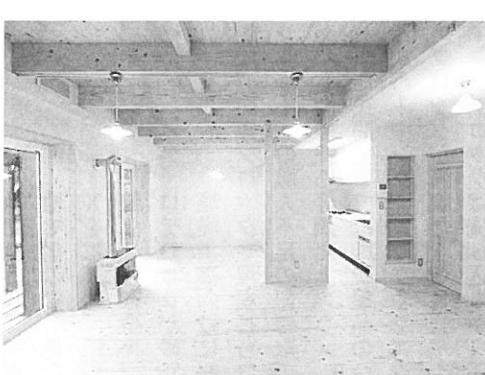
外断熱と床下の防湿対策で湿気が外からの影響を受けなくなると、後はコンクリートブロックが季節に応じて室内湿度を調節してくれるという。

北海道の場合、夏場の2カ月は冬場の暖房で乾燥したブロックが湿気を吸収し、冬場にはその湿気を乾燥した室内に放出する仕組みだ。また一度床下を通してから外気を取り込むクールチューブやアースチューブ等の地熱を利用した温度調節方法を利用する換気方法の採用で、さらに夏冬ど



も快適な室内環境が実現できるという。第1号は2013年9月に完成し、「土地付き自然素材住宅を2000万円で手に入れたいのために考えました」と三角屋根プロジェクトのPRを開始。1年後には三角屋根プロジェクトに共感した施主が自ら篠路地区の中古物件を探し、三角屋根プロジェクト第2号が始まり昨年1月に竣工。今年秋には札幌市南東部に位置する清田区内で第3号が完成した。また昨年モデルハウスとして公開していた第1号物件は、住居兼整体院用として譲りたいとの依頼があり、今年4月に整体院が開業した。

西條社長は「三角屋根コンクリートブロック住宅はだんだん少なくなっている。第3号物件のプロジェクトを進めている時にも、近く取り壊しが行われていた。し



内装には道産材をふんだんに使用しており、もとのブロック造住宅とは雰囲気ががらっと変わる。玄関に入っただけで木の匂いに生まれまるで木造住宅のようだが、木造住宅よりも住みやすいのではないか。三角屋根プロジェクトを利用して、北海道の原風景三角屋根住宅を壊すことなく上手く使いつけて欲しい」と話している。



10月に完成した3棟目の内観

かし外断熱を取り入れ、基礎部分に手を加えれば居住性は格段に改善されるし、掃出し窓を設ける事もできる。小さな吹き抜けを設けることができるので、燃料費も安価に抑えることができる。坪庭一ヶ所で約30坪の建物を暖めることができるので、燃料費も50万円位の予算があれば、断熱窓への改修や防湿コンクリートを打設することで補強もしながらとても良い環境ができる。